

平成30年度

研究・実践報告集

まちだの実践

第46号



東京都立町田の丘学園

目次

はじめに

I 今年度の研究活動

今年度のA部門の研究について

小学部

中学部

高等部

訪問の研究報告

自立活動部の研究報告

A部門公開研のまとめ

今年度のB部門の研究について

小学部

中学部

高等部

B部門公開研のまとめ

II 本校の特色ある取組

特別支援学校における芸術教育の推進事業

特別支援学校における社会貢献活動モデル事業

宿泊防災訓練実施報告

職業教育の充実事業

外部専門員活用報告（両部門）

センター的機能の報告

III 資料編

キャリア教育推進委員会（全体計画）

進路指導部（見学先と活動内容）

研究研修部 教材集

教育情報部 ICT活用事例集

医療的ケア委員会

今年度の研修一覧

おわりに

はじめに

東京都立町田の丘学園

校長 茂木 裕之

平成30年度は、4年目となる本校舎と山崎校舎（仮設校舎）の、両校舎での教育活動を行いました。今年度は東京都及び町田市の全面協力の下、山崎保育園東側に新しいグラウンドが完成しました。本校舎では7月下旬から改築工事が始まりました。整理・整頓を心掛け、工事進行下での教育環境の整備を進めています。

学校規模は、本校校舎は、肢体不自由教育部門小中高等部17学級（内訪問学級2学級）45名と知的障害教育部門高等部24学級168名、山崎校舎は、知的障害教育部門小学部と中学部38学級171名、両校舎合わせ全校で339名となりました。昨年度に比べて2学級、児童・生徒数で21名、増加しました。（平成30年5月1日現在）

さて、本年度の研究活動ですが、「児童・生徒の自ら学ぶ姿勢の育成を目指した授業づくり～活動分析を活かした指導と評価を通して～」を全校テーマとした3か年計画の3年目でした。この研究では、活動分析（課題分析）を切り口に、児童・生徒に応じたスモール・ステップの指導を行い、それに基づく評価を行い、具体的な指導の手立てについて研究し授業改善を進めています。併せて、新学習指導要領に示された育成すべき資質・能力、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善及び評価を加味しながら研究を進めました。

山崎校舎の知的障害教育部門では、全校テーマを受け、小学部では、「アクティブラーニングと活動分析」、中学部では、「評価の観点整理と活動分析表の観点」から、国語・数学、美術、職業・家庭において活動分析、工程分析を生かした授業研究を進めてきました。小学部の集団での活動分析表は、独創的な発想であるものなお工夫が必要です。また、中学部では、学習指導要領に基づき評価規準表を作成しました。この一年で、児童・生徒が自ら動けるための観点整理が進み、若手の教員の成長も見られました。

本校舎の肢体不自由教育部門小学部・中学部では、テーマを「『深い学び』を通して、児童・生徒が『できた』『分かった』と実感する授業づくり」、肢体不自由教育部門高等部では「活動評価表をツールとした『目標』『支援方法』『評価』の共有とP D C Aサイクルによる生徒の学びの質の向上」として、活動分析表を活用した授業改善の観点整理を行った授業研究を行いました。また、知的障害教育部門高等部では、テーマを「分かって動ける作業学習の授業づくり～手順書の作成を通して～」として、工程分析を基盤に「分かって動けること」を目指した作業学習の授業研究を中心に行いました。

研究活動の3年目として、活動分析を理解し、指導の手立てについて協議が深められたと思います。活動分析の手法を理解することで、日々の授業実践をも深まることを期待したいとの参観者からの声がありました。次年度からは、新しい研究主題のもと、次の3年計画が始まります。高等部も新しい学習指導要領が公示され、すべての学部の進むべき方向性が明確化します。社会に出て活躍する人材の育成が主眼となります。

この「まちだの実践」は、1年間各学部各部門が取り組んできた教育実践を東京都教育委員会や外部専門家等の先生方に多くの御指導・御助言をいただきまとめたものです。これまで関係していただきました、助言者及び関係者の皆様に心から感謝申し上げますとともに、今後とも御指導・御助言を賜りたくお願いいたします。是非、御一読いただき、忌たんのない御意見、御指導・御助言をいただけると幸いです。